

Money&Investment

証券優遇税制が今年末で打ち切れ、来年から株式と株式投資信託の譲渡益にかかる税率が倍になる。デフレ脱却期待を背景に日本株が底堅く推移するなか、年内に保有株を売却して利益確定するのか、持ち続けるのか悩むところ。年末になって焦るより今から考えておこう。

譲渡益、税率倍に

「軽減税率の廃止には早めに対応しよう」。SMB C日興証券は税負担の試算を盛り込んだ資料を希望する個人顧客に配り始めた。来年以降、株式譲渡益課税はこれまでの10%（復興特別所得税込みで10.147%）から20%（同20.315%）になる予定だ（図A）。

資料で投資家の関心を集めているのが「クロス取引」だ。保有株をいったん売却し、翌営業日の時間外取引で同じ株価で同じ株数を買戻すのが一般的な条件。含み益がある場合、そのまま持ち続けるのに比べ節税効果が見込めるという。同社ソリューション企画部長の植村繁氏は「秋から年末にかけてさらに注目が集まるだろう」と予想する。SBI証券も7月から個人向けにクロス取引の取り扱いを始めた。

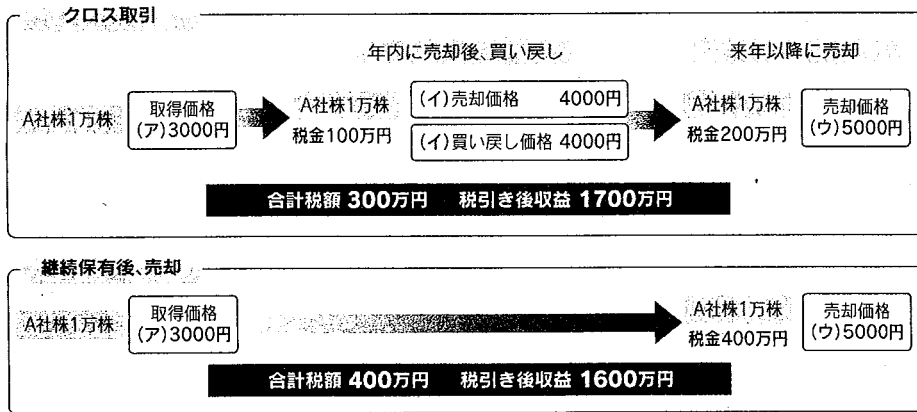
もちろん年内に売り切つて利益確定するのも一案だ。ただ安倍晋三政権の経済政策「アベノミクス」が支えとなり、株式市場では中長期的な先高観を指摘する見方がある。大和証券シニアストラテジストの壁谷洋和氏は「円安が進めば2013年末の日経平均株価は1万7000円も視野に

株売却か持ち続けるか

A 上場株式・公募株式投信の譲渡益・配当にかかる税率



B 「クロス取引」で節税効果が見込めることも



(注) SMBC日興証券の資料をもとに作成

証券優遇税制 今年末打ち切り

入る」と予想。来年以降も潤沢なマネーが相場を支えたと読む。

年内のクロス取引でどれくらい節税効果があるの

か。例えば1株3000円（ア）で1万株取得したA社の株価が今年4000円（イ）、来年以降5000円（ウ）と推移する場合、クロス取引を実行し、来年以降に売ると合計税額は300万円、税引き後の投資収益は1700万円だ。一方、年内に売買はせず、当初の取得価格と買い戻し価格の平均を下回らない限り、クロス取引が有利になる。

ただこれは復興特別所得

C NISAの非課税メリットは大きい

	クロス取引を実行	継続保有	NISA口座
2014年	63.81万円	63.07	64.3
16	69.08	68.51	70.9
18	74.9	74.5	78.16
20	81.31	81.12	86.17
22	88.37	88.41	95

(注) 2008年に投資額50万円、利回り5%、売買コスト1%で運用を始め、13年内にクロス取引をした場合と継続保有した場合、13年内に売却し14年に同じ価格で買い戻してNISA口座に入れた場合の資産額を比較

「クロス取引」に関心 売買コストも考慮を

税率などの端数を省き、クロス取引の売買コストを反映していない。税金分を引くと投資元本は減る点も考慮していない。「現物株のクロス取引では税金による元本の目減りを自己資金で補って同じ株数を購入する例が多い。売買コストも低い」（植村氏）ためだ。目安の一つとしてみるのが無難だろう。

事業法人のクロス取引は認められておらず、個人も「今後の法令改正や税務当局の解釈の変更があれば、租税回避とみなされる可能性はある」（大手証券）ことに注意も必要だ。

一方、老後の資金作りを意識する40〜50代の資産形成世代であれば、10〜15年程度の長期投資を考えたいところ。その場合はどうか。資産運用アドバイザーの尾藤峰男氏は投資額50万円、利回りが5%、売買コスト

が1%で株式を運用したケースを想定。08年に取得し5年後にあたる今年に売却して買い戻すパターンと保有を継続するパターンを比較した（表C）。

21年まではクロス取引による節税効果が見込めるが、それ以降は継続保有の資産額が多くなる。尾藤氏は「売買コスト削減と復利運用の継続などが節税効果を上回るためと説明する。

NISAを活用

少額投資非課税制度（日本版ISA）の非課税メリットも見逃せない（表C）。毎年の限度額は100万円だが、使い切れる人はかなりではないとみられることから同条件で比較した。

今年末までに売却し、14年に買い戻してNISA口座で運用すると想定。最初の非課税枠の期限5年がくる18年時点の資産額はクロス取引や継続保有を上回る計算だ。19年から次の枠に乗り継げば、非課税の恩恵はさらに大きくなる。再購入まで価格変動リスクが生じるが、非課税期間内に売却する場合は活用を検討するのも選択肢だ。

こうした試算は投資環境が順調であることが前提だ。安倍政権の成長戦略への期待が後退したり、新興国経済への懸念が長期化し、世界的にリスク回避が強まったりすれば、運用計画を再点検する必要があるだろう。（下前後編）